

写

平成 30 年 12 月 3 日

杉並区長 殿

杉並区NPO等活動推進協議会
会長 福島 康仁

平成 29 年度杉並区協働提案実施事業の評価結果について

平成 29 年度杉並区協働提案実施事業について、下記のとおり評価を行ったので報告
します。

記

1 杉並区協働提案実施事業評価委員

氏 名	区分	備 考
ふくしま やすひと 福島 康仁	杉並区NPO等活動推進協議会会長、 同協議会協働推進部会部会長	日本大学法学部 公共政策学科教授
ただ くにあき 多田 邦晃	杉並区NPO等活動推進協議会 協働推進部会部会員	区民公募
まつもと さおり 松本 沙織		区民公募
はちや えつこ 八谷 悦子		NPO等活動関係者（公 募）
みはら きくえ 三原 紀久恵		団体推薦（東京税理士会 荻窪支部）
おく まさる 奥 優		団体推薦（公益社団法人 東京青年会議所）

2 平成 29 年度杉並区協働提案実施事業一覧

【平成 27 年度からの継続事業】

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 チューニング・フォー ー・ザ・フューチャー	すぎなみ戦略的アートプロジェクト	区民生活部 文化・交流課 文化振興担当
②	株式会社トロア	杉並区内の障害者施設ネットワーク 基盤の強化	保健福祉部 障害者生活支援課 就労支援担当
③	特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会	子どもプレーパーク事業	保健福祉部 児童青少年課 児童館運営係

【平成 28 年度新規事業】

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 中小企業診断士会	空き店舗のデータベース作成と商店 街・創業者のマッチング事業	区民生活部 産業振興センター 商業係
②	特定非営利活動法人 ピルコン	すぎなみレッドリボンプロジェクト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

4 協働提案の評価方法

◆ 評価対象

- (1) 実施事業関係書類の書類審査
 - ① 「平成 29 年度杉並区協働提案実施予定事業の評価結果(H28.12.1)」
 - ② 「協働提案事業協定書」(平成 29 年度)
 - ③ 「協働提案実施事業計画書」(平成 29 年度)
 - ④ 「収支予定書」(平成 29 年度)
 - ⑤ 「協働提案実施事業報告書」(平成 29 年度)
 - ⑥ 「収支報告書」(平成 29 年度)
 - ⑦ 「事業に係る成果物(小冊子等)」
 - ⑧ 「平成 28 年度杉並区協働提案実施事業の評価結果」(継続事業のみ)

◆ 評価方法

- 「協働提案評価表」を使用して各部会員が評価項目ごとに ABCDE 評価する。
A=特に評価できる (5点)、B=どちらかといえば評価できる (4点)、C=標準的である (3点)、D=どちらかといえば評価できない (2点)、E=評価できない (1点)
- 各部会員評価表を集計し、以下のとおりの採点を評価の参考とする。
 - ・ 評価項目及び全体の平均点を出す。平均点を出すに当たっては、6人の平均点を算出
- 評価については、平均点に応じて以下の5段階で行うこととする。

A	B	C	D	E
特に 評価できる	どちらかといえば 評価できる	標準的である	どちらかといえば 評価できない	評価できない
5 ~4.45	4.44 ~3.45	3.44 ~2.45	2.44 ~1.45	1.44 ~1

5 評価内容

(1) 平成 29 年度実施事業（平成 27 年度からの継続事業）

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 チューニング・フォー ー・ザ・フューチャー	すぎなみ戦略的アートプロジェクト	区民生活部 文化・交流課 文化振興担当

○ 評価結果

「B」

○ 評価コメント

提案書類審査結果に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー」および「杉並区区民生活部文化・交流課文化振興担当」の協働提案実施事業について、「どちらかといえば評価できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、区内で活動するアーティストのニーズに応える事業内容であると評価できる。しかしながら、区民ニーズに対応しているかどうかは疑問が残るとの指摘がある。区民全体の要望という観点から事業展開の必要性について、その理由などが明示されるべきであるとの意見が委員会で出された。

設定された目標については、まちなかギャラリー登録数について、計画どおり達成できた。プロジェクトへの関与が消極的などところがあることは前年度も指摘されており、その解決にむけて取り組むことが課題として残った。

協働の効果については、広報等の面で区民の目に触れる機会が増え、各アクターが単独で実施するよりも効果的であった。

地域資源の活用については、まちなかギャラリー及びアーティストの登録数の増加は、地域資源や地域人材を有効に活用できたものと評価できる。その一方で、プロジェクトへの関与度が低いギャラリーやアーティストが増加している点は課題である。

区民満足度については、ファンミーティングに一定数の参加者などアートに関心のある一定数の区民からの評価はあり、アートサポーター講座に受講者の大部分がサポーターの登録をした点は評価できる。しかし、ファンミーティングでは新規の参加者が少なく、より多くの区民に事業を理解してもらう必要がある。より多くの区民の満足度をどのように向上させていくかが課題である。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、アートサポーター講座、フ

アンミーティング、すぎなみアートさんぽの実施は団体の強みを生かし事業を実施できたと考えられる。

経済性については、企業からの寄付があったことは評価できるが、アートイベントの経費については自己負担が予算の2倍近くとなり、とりわけイベントボランティアの見積もりが十分ではなかった。

創造性・新規性については、取り組みや成果を出すことが難しいと考えられるアートという分野での挑戦的萌芽事業といえる。

今後の継続性などについては、ギャラリーやアーティストの数には一定の効果は見られたが、サポーターが固定化していることで課題が残る。アートに関心のない地域住民への発展を期待したい。

②	株式会社トロア	杉並区内の障害者施設ネットワーク 基盤の強化	保健福祉部 障害者生活支援課 就労支援担当
---	---------	---------------------------	-----------------------------

○ 評価結果

「B」

○ 評価コメント

提案書類審査結果に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「杉並区内の障害者施設ネットワーク基盤の強化」にかかる「株式会社トロア」および「杉並区保健福祉部障害者生活支援課就労支援担当」の協働提案実施事業について、「どちらかといえば評価できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、障がい者の自主製品を周知し購入してもらおうとする着眼点は評価できる。一方で、売上目標の設定のもとで、障害者施設で着実に売上が伸びることが障害者の真の喜びに繋がっているかは疑問が残り、限界の存在を指摘する声が多かった。

設定された目標については、工賃アップがめざされたが障がいをもつ就労者の働く意欲アップの達成度はどれほどであったか、また就労意欲をあげるため、単に工賃を上げるといった目標設定が適切だったかが疑問である。

協働の効果については、区と連携することで、各施設間でのネットワーク形成は区の有する公的な信頼により構築され、当該団体と区の両者の強みや特徴を生かした協働事業といえる。障害者施設だけでは存在しなかった提案なども誕生し、施設職員の運営に対する意識改革をもたらしたと理解する。

地域資源の活用については、支援者、購入者を増やす事業を実施した点が評価できる。新たな地域資源とのネットワーク形成を期待したい。

区民満足度については、事業を通じて、障害者やその家族の満足度はある程度の向上したのではないかと思われるが、なによりも障害者自身がやりがいなど精神的な満足度を高める工夫を期待したい。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、コンサルタントの専門知識が生かされた事業である。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

前述のとおり、障害者施設の運営は企業の経営原理による大きな改善があった。一方で、そこには健常者と異なる限界がある点を認識し、単に賃金を上げることだけを第一義にせず、障害者施設の運営者やそこで働く障害者の意見を十分聴取したうえで、障害者施設ならではの改善を検討してほしい。

③	特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会	子どもプレーパーク事業	保健福祉部 児童青少年課 児童館運営係
---	------------------------	-------------	---------------------------

○ 評価結果

「B」

○ 評価コメント

提案書類審査結果に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「子どもプレーパーク事業」にかかる「特定非営利活動法人杉並冒険あそびの会」および「杉並区保健福祉部児童青少年課児童館運営係」の協働提案実施事業について、「どちらかといえば評価できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、子どもの遊び場、居場所というニーズはますます高まると思われる。区民の要望に応えた事業を行なったといえる。今後も子どもの健康や、新たな交流の場として期待したい。

設定された目標については、おおむね目標を達成していると評価した。ただし、昨年度も指摘したところであるが、次世代プレーリーダーの養成が課題である。

協働の効果については、区と協働することで、提案団体が有する経験的知と人的リソース、行政の有する公園、児童館での開催などのインフラや信頼度がマッチして相乗効果をもたらした。むしろ、協働なくしてこの事業の効果的な実施は困難であるように思われる。

区民満足度については、全区的とはいえないが現場を体験した受益者の満足は高いといえる。プレーパーク等が行われている地域では区民の満足度は向上している。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、長年の運営実績があり、事業実施に必要な十分なノウハウの蓄積があると判断した。ただし、NPOの運営、区の予算割合など団体の実施体制は十分とはいえない部分がある。これから事業を拡大していく上で団体の組織基盤の強化、自己資金の確保が重要である。自己資金力の脆弱性を改善するには、より組織力・資金力を高めてほしいとの意見が出された。

継続性・波及性については、ニーズが高く1回あたりの参加者も増えているので他の地域への波及効果は期待できる。事業を支える運営者・会員・ボランティア・プレーリーダー等の充実が将来的に発展、継続する可能性を握っている。昨年同様、人的資源と自主財源の確保が今後の課題である。

(2) 平成 29 年度実施事業（平成 28 年度からの継続事業）

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 中小企業診断士会	空き店舗のデータベース作成と商店街・創業者のマッチング事業	区民生活部 産業振興センター 商業係

○ 評価結果

「C」

○ 評価コメント

提案書類審査結果に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「空き店舗のデータベース作成と商店街・創業者のマッチング事業」にかかる「特定非営利活動法人杉並中小企業診断士会」および「杉並区区民生活部産業振興センター商業係」の協働提案実施事業について、「標準的である」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、空き店舗の解消という地域の課題に対して区民の要望・課題として必要があるが、地域別での課題、ニーズを十分に把握したものとはいえない。また、事業の着手前に、不動産業界との調整が必要であった。

目標の設定・達成度については、商店街の登録と空き店舗の登録数はある程度達成された。しかし、最終目標はマッチングさせることであることから達成度が高いとはいえない。

協働の効果については、杉並区公式ホームページや広報への掲載、商店会への呼びかけなど、協働で行うことのメリットが生かされていたと考える。商店街の登録数が目標を達成していることから、協働で事業を実施した一定の成果はあったと考えられる。空き店舗の情報などが行政側にあったといい難く、協働の効果を疑問視する指摘もあった。

地域資源の活用については、商店街の登録数が目標を達成した点については、地域資源を活用できたとも考えられる。ただし、不動産業者との連携が不十分であったことが指摘できる。

区民満足度については、マッチングが成功した事例が若干示されたことで、限定的ではあるが区民の満足度は向上した。ただし、不動産屋や地元の有識者のほうが情報を有しており、データベースを活用しないで解決するケースのほうが多かった。サイトへの登録が一定数あったことは評価に繋がるが、その一方で報告書にあるとおり、マッチングを行う上での課題が多く見られる点では満足度向上につながったとはいえない点がある。マッチングの実績が少なく満足度が期待どおり向上したとはいえない

い。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、出店者支援は団体の強みを生かした事業であるといえる。商店街の活性化支援、創業希望者の出展支援において提案団体の経験値や専門知識を生かした点は評価できる。事業を実施するための実行組織図と現実には乖離していた。

創造性・新規性については、空き店舗のデータベース作成という新たなチャレンジへの取り組みは評価できるが、マッチングが成立した商店街に偏りがあり、地域全体への波及効果については疑問が残る。実現可能性という点ではやや課題が残る事業であり、空き店舗の登録時に不動産業者との障壁があり登録実績が増えない理由とされていたが、想定外の理由とは言い難い。

マッチングが成立した商店街に偏りがあり、地域全体への波及効果が期待できない。空き店舗の解消には、マッチング以前の問題が障壁となることが分かった。本事業の内容では今後の発展・展開は難しいと考える。

全体を通じて、事業自体については期待した成果が十分でなかったが、この事業を通じて構築された商店街との信頼のネットワークの構築という点では大きな成果をもたらしたと評価できる。今後、このネットワークという資産を活用し、商店街の活性化の一助になることを期待したい。

②	特定非営利活動法人 ピルコン	すぎなみレッドリボンプロジェクト	保健福祉部 保健予防課 感染症係
---	-------------------	------------------	------------------------

○ 評価結果

「B」

○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみレッドリボンプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人ピルコン」および「杉並区保健福祉部保健予防課感染症係」の協働提案実施事業について、「どちらかといえば評価できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、区民全体的に強い要望があるかとは言い難いテーマであるが、若者世代を対象に必要な取り組みであり、また取り扱いが困難なテーマではある。その課題の解決に向けた取り組みとして高く評価できる。この問題をタブー視する区民に対してアプローチし、協働による斬新なアイデアとデザイン性などこの事業活動を通じて様々な「気づき」を啓発し、解決に向けた事業が実施できたといえる。

設定された目標については、学校訪問による啓発活動を実施するには学校側の理解を得ることのハードルが高く難しかったようであるが、勉強会、ピアリーダーの育成の目標は達成されたと考えられる。ただし、若者への啓発についての目標設定が達成度をはかるには明確ではなかったように感じる。若者への啓蒙活動には教育者の巻き込みも不可欠であり、引き続き継続してほしい。

協働の効果については、協働の効果は得られているが団体の力を発揮しきれていない。区のみでは実施が難しいテーマであるので、区への信頼のもと、さらに提案団体の様々なアイデアを生かした事業成果を期待したい。

地域資源の活用については、杉並保健所でのピアリーダーの育成、杉並公会堂での成人の集いで資料を配布したこと等、有効に事業を実施できている。地域の学校やイベント、成人式などで事業を行ったことも地域人材を有効に活用できているといえよう。さらなる地域人材の活用すなわち大学などとの連携をもう少し模索してほしい。

区民満足度については、なかなか満足度が図りにくい事業である。そもそも必要な区民のもとに情報が十分届いているとはいえず、このプロジェクトの認知度も低い。ただし杉並保健所でのHIV検査者数が増え、事業への参加延べ人数は増加している点から、満足も向上するのではないかと考えられる。引き続き多くの区民に普及し実施に努めてほしい。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、知識、企画力あるアイデア

商品、パンフなどに工夫が見られ、これまでの経験、実績を十分生かしている。医師など専門家の協力も得られ、事業内容に関しては、提案団体の強みを生かして実施されたと考える。区内の学校等の連携が課題であったが、本年度は4校で事業を実施でき、他団体との協力体制が築けてきている。引き続きより多くの区内学校との連携を行ってほしい。また、他団体との協力、特に杉並区内の団体との協力が弱いように感じる。活動においての協力が得られる団体との連携を模索したほうが良い。

計画性については、本年度は概ね計画通りに事業が実施されたと考えるが、イベント等への出展、教育者への講演の部分において実行前後で乖離がみられる。

経済性については、協賛を集める計画はどの程度実現性があったのか疑問が残る。収入の部において企業協賛が予定より少なくなり、その分を自己資金による負担となった点は今後の課題である。

創造性・新規性については、NPOらしいアイデアが面白い。啓発冊子、チャリティーグッズなどのアイデアは評価できる。イベントでの啓発活動、啓発資材の企画、制作、SNSキャンペーンなどは新しい発想であり、チャレンジ精神があった。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

広報誌、チャリティーグッズなどの啓発資材をうまく活用できればもっと効果が望めるように思われる。本テーマを行政との協働提案として実施されたことはとても意味のある一歩であったと思う。

HIV等について、多くのアイデアとデザイン力で課題に果敢に取組み、学校での啓発プログラムの実施については、参加者も多く非常に評価できる。保健所などで実施したピアリーダーの育成についてはどうしても参加者が少なくなり、自ら行動を起こすことの難しさが感じられるが、啓発活動では多くの参加者を確保したが、さらに具体的な行動を起こさせる工夫が必要であろう。

5 杉並区協働提案評価集計表

別紙のとおり